

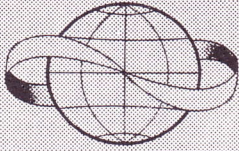
ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第31号
(新年号)

謹賀新年

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788



特集！「米国西海岸

の資源回収を視察」

十月下旬の一週間、米国のロサンゼルス近郊の大手資源ディーラー六ヶ所を視察した。
この地域の資源回収は、「カーブサイド（縁石回収）」と言って各家庭の庭先に、市が回収ボックスを常設し、それを市の委託業者が定期的に回収するシステムだ。
ボックスは、ごみ専用と資源専用の二種類置いてあり、資源物用には紙類・ビン・缶・ペットボトル・ミルクボトル・廃プラスチック・布類などすべて混合状態で投入し一括収集している。
一〇トン車ほどの大型トラックで側面にアームがついていて、庭先においてあるボックスをつまみ荷台前方の天井から中身だけ投下するもので、一人で作業していた。市民は排出量にかかわらず、月五〇ドルのゴミ処理代を市に支払う。回収した資源には、粗大ごみ類・マットレス・じゅうたん・生ごみなども含まれ、悪臭や粉塵も立ち込め、わが国には馴染まない厳しい現場環境に映った。
これらの資源物は、粗大物を除いて二メートル幅程のコンベアに乗

せて高速で流れ、作業員が両側で決められたものを手際よく分別していた。いつの間にか紙類のライン・びん缶ライン・ボトルライン・廃プラスチックラインにとコンベアを乗り換え、殆どの資源が単品に分別プレスされて、超大型コンテナ車に積み込まれる仕組みだ。
紙類は、段ボール・新聞古紙・ミックス古紙に分けられ、品質はお世辞にも良とは言えなかった。しかし、販売価格は日本の古紙よりもkgあたり3〜5円程高いそうだ。信じられないことに、この混合回収資源は、有料で購入されること、そしてペットBや廃プラスチックはもちろんマットレスでもじゅうたんでも濡れボロ布でも売買しており、それが儲け分だとのことだ。
家庭系資源は、殆どこのカーブサイド方式で回収される。
ディーラーには一般の人や事業者また回収業者などの持ち込みも受け入れていて日本の相場よりもかなり高く買い入れていた。
事業者系古紙は、別ルートで高品質のものが大量に流通していた。わが国との主な相違点を挙げてみると、まず道路や処理工場ストックヤードの広さが違う。超大型の特製車両や重機で、月六千トン以上回収選分処理している。

すべての資源が量的にまとまり、安定して供給できる体制とストックヤードが整っているため、価格交渉も内外に強気の戦略が取れると言う。
また大きな違いはゴミ処理代で、kgあたり三円程度で埋立処分できる。日本の廃棄物処理費は三〇円から八〇円以上かかる所もある。逆有償回収を要求すれば、即ごみとして処理されると言う。燃費も日本の半分以下だった。
さらに、米国のゴミ処理もリサイクルもアウトで廃棄物処理法もリサイクル法も日本のように雁字搦めのものはないとのことだった。市民のライフスタイルにも大きな差を感じた。
重厚長大でゆとりを感じる米国ではあるが、最大の貿易赤字対国となった中国はじめアジアの影響を強く受けながら大量消費社会を維持しているようにも感じた。
今回の視察に当って、セイフ・シユレッドの須崎社長様はじめ多くの方々のご高配を頂き心から深謝申し上げる。そして多額の負担で参加してくれたメンバーにも感謝したい。外から見た我が国のリサイクル事業をさらに分析し、今後の業界の活動指針や課題を考える一助にしたい。

(T・K)



カーブサイド回収の様子

日米の資源リサイクル比較
「米の全資源混合回収について」
 視察した地域でも十数年前までは資源の種類別に回収していたが、低コストの混合回収を大手業者から持ちかけ実現したようだ。カーブサイド回収を可能にする条件は、各戸に回収ボックスを置くスペースがあること・大型特殊車両が稼働できる道路が整っている

こと・五千坪以上ある受入ヤードと選分ライン処理施設が完備していること・再生資源の安定した流通先を確保していることなどを充たすことだ。我が国でも熊本市などで一部資源の混合回収を実施している地域もあるが、全国の主要都市圏でこれらの条件に沿う所は皆無に近い。自家用トラックで事業系の段ボールやアルミ缶を回収する民間業者もいたが、全体から見ればわずかなものだった。古紙買取価格は、店頭にも表示してありkg当り七〜九円とかなり高かったが、古紙などの抜き取りをする者は、いないとのことだった。

「リサイクルコストについて」

コストの違いとしてはガソリンがkg当り三五円から五〇円に上ったと嘆いていたが日本の半分以下だ。保険料は掛かるが車検制度も無く車種にかかる税金も、土地の固定資産税なども格安のようだ。

処理工場の労働賃金も、保険制度は完備しているが、手取り時給七五〇円程度だと云う。朝五時から午後一時までコンベアが稼働し、途中二回小休憩が入る重労働から推測すると低位に思った。

残渣(み類)の処理費(kg約三円)



広大なヤードでの荷降ろしの様子

も信じられないほど格安だ。防音・防臭・防塵などの近隣環境対策費も比較にならない。

「日米資源価格の格差について」

AOC(米国の段ボール古紙)も古紙混入率が高くJOC(日本の段ボール)と殆ど変わりなく、混合回収で品質はかなり劣化していた。しかし価格はkgあたり三〜五円ほど高く売れると言う。

米国の古紙輸出量は、世界の古紙輸出量の過半数を賄っている。

中国などアジア諸国にとっては製紙原料の半分を米国古紙に頼る形になっている。

また価格低迷時にはストックできる広大なヤードを完備しているのも価格交渉を有利にしている。

鉄・銅などの金属類や廃プラスチックなども、香港・台湾を含む中国圏へ輸出されるようだが、日本の資源物より高値の取引が成り立っているらしい。

ロットの違いは明白であるが、品質は日本の再生資源の方がはるかに良といえる。輸出事業にも何か日米の力の違いが強く感じられた。それにしても、世界一高品質な我が国古紙の国内価格が、いまだに世界一安価に抑えられているのは納得できない。

「法律や仕組みの違いについて」

米国の廃棄物・リサイクル事業の特徴は、各州によって違うようだが、民間主導で進められていることとで、法律による規制や行政の介入も極めてソフトなものと言える。ごみ処理は有料で市民が負担し、市は、ボックスの用意とコーディネートするに留まっている。

リサイクル法などに縛られず、民間業者が設備をして、再生できる資源物すべてを有料で売買できる

条件がそろっている。また行政が絡まないで国際法にも抵触せず、輸出も有利に働いているのではと思った。

ごみ処理は焼却場もあるそうだが、埋立が主で、トン三千円程度で処理できることが、民間事業推進にも有利に働いていると思う。EPR(拡大製造者責任)はどうなっているか調査できなかったが、京都



コンベアー上での選別作業の様子

議定書も批准しないお国柄ではあまり期待できないだろう。

【我国リサイクルの今後の課題】

以上両国の間には、環境面やコスト等で大きな違いがあるが、今後のような形態をとれば民々のリサイクル事業が可能か、我々としても真剣に検討の必要がある。もちろん、すべての資源を市況に關係なく、ごみ化することなく、行政の力を借りずに、回収選分加工できる処理費の確保をしなければ



選別処理後プレスされた廃プラスチック

ばならない。もし民間回収可能な条件を整えずに、今までの行政と法律による強制的なごみ減量運動を変更すれば、大変なごみ化のリバウンド現象が起こることになる。

それには、生産者や消費者の責任によるコスト負担、そして古紙など再生資源物の価格の修正などを進める運動を起こさなければならぬ。生産・流通・消費・再資源化の各段階で痛みを伴った責任を負わなければ、持続可能な発生抑制型社会の実現は程遠いだろう。

加えて、我が国の資源リサイクルの特徴は、何と云っても再資源化物の『品質の良さ』であり、これは排出者個々の分別の徹底にほかならない。

今後、資源の再利用率向上そして輸出競争に打ち勝つためにも高品質化をさらに高める努力を怠ってはならないと痛感した。

【紙・板紙、古紙の統計比較】

米国の統計資料は別表に示すが、二〇〇三年の紙・板紙生産量は、八、一四四万トで消費量は八、八八万トと消費が七四四万ト上回っている。

そして、同年の紙・板紙輸出量は八六四万ト、輸入量一、六五七万トと大幅な輸入超過になっている。

つまり、アジアからの製品輸入が増えてその分、紙板紙の生産量が落ちていくことが解かる。

一方古紙の方は、輸入はわずかで一、二五二万ト輸出している。

アジアに原料を調達し、製品の輸入を促している形になっている。

古紙の回収率はカーブサイド回収などにより順調に伸び、〇三年にははじめて五〇・三%と大台に上った。しかし利用率は三七%に留まっている。



セイフシュレッド社にて

※当組合では、『アメリカ視察報告誌』を作成しました。ご購入を希望される方は、当組合まで電話・FAX・Eメールにてご連絡をお願い致します。

米国の古紙消費量・回収量及び古紙回収率の推移

(単位:メトリック千トン、%)

年	紙・板紙生産量 (千トン)	紙・板紙消費量 (千トン)	紙・板紙向古紙 消費量(千トン)	古紙消費 原単位(%)	他用途利用向 古紙消費(千トン)	古紙消費量 合計(千トン)	古紙輸出		古紙輸入 (千トン)	古紙回収量 (千トン)	古紙回収率 (%)
							(千トン)	中国向輸出			
1975	46,235	49,080	10,655	23.0	485	11,141	781	0	65	11,856	24.2
1976	52,904	56,247	12,355	23.4	571	12,927	1,155	0	96	13,985	24.9
1977	54,456	58,268	12,751	23.4	789	13,540	1,371	0	83	14,828	25.4
1978	56,277	61,483	13,387	23.8	455	13,843	1,463	0	63	15,242	24.8
1979	58,361	63,305	13,932	23.9	462	14,394	1,929	0	71	16,253	25.7
1980	57,685	60,920	13,534	23.5	428	13,962	2,391	0	79	16,274	26.7
1981	58,283	61,637	13,639	23.4	435	14,074	2,070	8	72	16,072	26.1
1982	55,283	58,710	13,091	23.7	442	13,532	2,025	44	67	15,491	26.4
1983	60,541	64,548	14,193	23.4	430	14,623	2,453	24	91	16,985	26.3
1984	63,716	69,782	15,169	23.8	416	15,585	3,135	3	100	18,620	26.7
1985	62,295	69,053	14,848	23.8	480	15,328	3,225	24	80	18,474	26.8
1986	65,780	72,335	16,266	24.7	539	16,805	3,712	21	90	20,427	28.2
1987	68,886	75,720	16,955	24.6	596	17,551	4,362	40	115	21,798	28.8
1988	71,019	77,748	17,854	25.1	638	18,492	5,399	106	146	23,745	30.5
1989	71,263	77,431	18,340	25.7	655	18,994	5,720	123	157	24,558	31.7
1990	73,058	78,819	19,715	27.0	902	20,616	5,900	84	112	26,405	33.5
1991	73,747	77,227	21,461	29.1	984	22,426	5,984	202	111	28,299	36.6
1992	76,911	80,151	23,750	30.9	1,031	24,781	6,151	302	136	30,796	38.4
1993	78,722	83,117	25,406	32.3	1,103	26,509	5,778	189	125	32,162	38.7
1994	82,444	86,815	27,818	33.7	1,179	28,997	7,232	291	229	36,000	41.5
1995	82,774	87,046	28,470	34.4	1,261	29,731	8,987	521	452	38,265	44.0
1996	83,654	85,738	30,819	36.8	1,349	32,168	7,332	645	430	39,070	45.6
1997	87,855	90,297	31,935	36.3	1,442	33,377	7,149	787	629	39,897	44.2
1998	87,409	91,773	32,444	37.1	1,542	33,986	7,362	999	463	40,885	44.5
1999	89,475	95,522	33,311	37.2	1,814	35,125	7,725	1,187	386	42,464	44.5
2000	87,116	93,250	32,150	36.9	1,995	34,146	9,317	1,856	551	42,911	46.0
2001	81,978	88,337	31,316	38.2	1,995	33,311	9,611	3,301	297	42,625	48.3
2002	82,639	89,743	31,363	38.0	1,995	33,359	10,229	3,331	373	43,215	48.2
2003	81,435	88,877	30,521	37.5	1,995	32,516	12,521	5,374	362	44,675	50.3

1.紙・板紙生産量(千トン):すべての紙・板紙製品の生産量で、紙及び板紙用原紙、建材用紙・板紙、プレスボード等を含む。

2.紙・板紙消費量(千トン):紙・板紙生産量+紙・板紙輸入量-紙・板紙輸出量

3.古紙消費原単位(%):紙・板紙向古紙消費量÷紙・板紙生産量

4.他用途利用向古紙消費(千トン):パルプモールド及び道路用緑化苗床、動物用敷料、断熱材、包装用緩衝材等への新聞古紙消費量を推定

5.古紙消費量合計(千トン):紙・板紙向古紙消費量+他用途利用古紙消費量

5.古紙輸出量(千トン):カナダへの古紙輸出量を含む

6.古紙回収量(千トン):紙・板紙向古紙消費量+他用途利用向古紙消費量+古紙輸出量-古紙輸入量

7.古紙回収率(%):古紙回収量÷紙・板紙消費量

8.引用統計 米国森林及び製紙協会

今までに紙を作る場面は製紙工場
で何度も見学している。それは広
大な敷地に巨大な冷たいマシーン
が連なり、その連なりは原料から
真っ白な紙が巻き取られるまでず
っと動き続けている。その大掛か
りな仕掛けには圧倒されるばかり
だ。そこには人の感情や手心など
拒絶する意志さえ感じられる。ま
さに大量生産、
大量消費に適
応した製造機
械の最たるも
のだ。この大
工場で製造さ
れた紙は「洋
紙」と呼ばれ
ている。そこ
で今回は作る
過程に人間臭
さが残る和
紙の手作りを体験することになっ
た。和紙の原料となる主な植物は
楮（こうぞ）、三椏（みつまた）、
雁皮（がんび）の三種がある。い
ずれも紙の変色の素となるリグニ
ンが少なく、繊維が強靱で長いの
で、強く、保存性が非常に良い紙
に仕上がる。（詳しいことは専門
書などを参照してください）。

一〇月二九日に石川県小松市にあ
る伝統工芸村「ゆのくにの森」を

手漉き和紙体験



熱心に和紙を漉いてる様子

訪れた。村の中には加賀の伝統工
芸『友禅染め』『輪島塗』『九谷焼』
『和紙すき』などの体験コーナー
がある。
和紙漉き体験で「うちわ」を作る
ことにした。ここの和紙の原料は
楮であった。楮の皮を剥いたり、
煮たり、さらしたり、叩いたりし
て水に溶かしおかゆ状にするまで
がたいへんな作業なのだが、ここ
まではすでに出来上がっていて、
横一メートル縦六〇センチ深さ四

〇センチほどの槽におかゆ状にな
ってすぐに漉けるようにセットさ
れている。それを三〇センチ程度
の木枠の底に金網がはってある漉
き枠で手前にサットすくい上げる。
手に冷とした感覚が伝わる。す
くい上げたら前後左右にゆっくり
とゆる動作を繰り返しながら枠
の中に均等に広げる。簡単な動作
なのだが皆、最初緊張していたの
か、枠を持つ両手に力が入りすぎ
て、せわしなく小刻みにゆすった
り、脚や腰まで振ってみたりと、
ぎこちない動きしかできない。そ
れでも目だけは真剣に枠の中のお
かゆを凝視している。そばで指導
員のアドバイスを受けながら何と
か漉くことが出来た。もっと大き
な和紙を一日中漉くとなったら大
変な作業だ。漉き終わった枠を静
かに移動してうちわの骨を枠の中
にはめ込む。その上に用意されて
いる木の葉や野草を自分の好みで
配置する。レイアウトセンスが問
われるところだ。置き終わったら
液状の糊をまんべんなくかける。
最後に色付けに何種類かの色水を
かける。この時点では緊張が解け
てきて談笑しながら作業ができる
ようになってきた。色彩感覚と全
体の調和が試されることになる。

かけた色水がはっきりと見え、



出来上がった和紙に絵付けをする様子

どの様に着色できたのかわかりに
くい。この後は水を絞りと、乾燥さ
せて出来上がり。四角いボックス
のような電気ヒーターにセットし
て待つこと40分ほどで手作り和
紙うちわが完成。
そつとなでてみる。和紙独特のふ
わっとした温もりのある感触に皆
感激。そのうちわであおいでみた
が風は涼しかった（当たり前だ）。
一同、この世に一枚しかない自分
だけの和紙うちわを大事に持ち帰
った次第である。

市民との触れ合いを 大切にしたりサイクルフェア

●小平市・清瀬市・東村山市
のリサイクルフェアに参加
して

今年も、『一人でも多くの市民の
皆様とふれあう』ことを目指して、
三市のイベントに参加しました。

小平市と東村山市では、例年通
りのトイレットペーパー販売、分
別クイズ、パネル展示等に加え、
青年部の柿崎君が考えた新企画
『リサイクルマーククイズ』を行
いました。分別クイズより簡単に
親しみやすく、子どもから年配の
方まで多くの市民の皆様に参加し
ていただきました。

小平市では、職場体験でお世話
になりました小平三中の吉田先生
もいらして下さり、お子様と一緒



小平市リサイクルフェスティバルにて



東村山市リサイクルフェアにて

にリサイクルマーククイズに挑戦
していただきました。

清瀬市民祭では、清瀬市環境部
のブースの一部をお借りして、ト
イレットペーパーの販売を行いま
した。展示等はありませんでした
が、再生品の販売を通して市民の
皆様と環境問題についてお話が
出たり、ふれあいの機会を持てた
と思います。来年以降も、より多
くの市民の皆様がリサイクルにつ
いて関心を持っていただけるよう
に頑張っていきたいと思えます。
(青年部 紺野琢生)

●他市・他団体

リサイクルフェア見学記

①世田谷区民まつり

去る七月三十一日(土)、東京・世

田谷区用賀のJRA馬事公苑で、
世田谷区民まつりが開催され、世
田谷リサイクル協同組合がリサイ
クル関連の出店をしていた。

組合では、資源物の出し方や禁
忌品などについてのカラフルなチ
ラシを配っていた。また、展示で
は、資源物と禁忌品の詳細な展示
の他、資源回収作業風景の写真パ
ネルの展示などをしていたのが目
を引いた。さらに、子供などを中
心としたダーツゲームを行ない、
メモ帳や鉛筆、消しゴムといった
記念品を配っていた。

ただ、リサイクルフェアではな
く、区民まつりの中の出店という
ことで、来客がまつりの中のもの
イベントに集中してしまう傾向が
あり、リサイクル関係の出店を訪
れる来客はあまり多くなく、やや
寂しい感があった。

②古紙再生促進センター

リサイクルペーパーフェア

去る十月一日(金)、古紙再生促
進センター主催の「2004リサイ
クルペーパーフェア」が、埼玉・
蕨市のイトーヨーカドー錦町店で
開催された。

会場では、紙のリサイクルの現
状などについてのパネル(文章に
グラフ・イラストなどをつけてカ
ラーで刷り込んだもの)や、古紙

利用製品、禁忌品などが展示され
ていた。

また、古紙を利用した紙抄き体
験、ミニティッシュペーパーの空
き箱に、子供たちに好きなように
絵をかいてもらうお絵かき体験、
トイレットペーパーの原料当てク
イズや、パソコンを利用したゲー
ム式クイズなどのリサイクルクイ
ズといったミニイベントが行われ
ていた。

古紙再生促進センターの方に話
を聞いたところ、①パネルは二〇
年前からのものを改造して使っ
ている、②今回のようなフェアを毎
年全国各地で行っている、③フェア
の開催に当たっては、別企業に
ボランティアを頼んでいるとのこ
とだった。



古紙再生促進センター・2004
リサイクルペーパーフェアの様子

リサイクル作業体験に中学生の参加相次ぐ

●大妻女子中学生が 古紙問屋で体験学習

環境保護団体NPO法人『ごみ環境ビジョン21』（田浪政博理事長）を通して大妻中野中学校より古紙の分別作業を体験したいとの依頼があり、十一月九日に当組合の古紙問屋四社で体験学習が行われました。

ごみの分野で体験的に環境学習をしたいということで大妻中野中学校の一年生4クラス総勢157名が大型バス4台に分乗してやって来ました。午前中は東村山市環



現場で説明する日興紙業(株)の渡辺社長



古紙分別作業体験の様子

境部の職員の皆さんの案内で東村山市秋水園での不燃ごみの分別作業や焼却炉などを見学しました。その後東村山スポーツセンターに移動し当組合の紺野理事長の古紙についての話を聞いてもらい、そして昼食。

午後からは当組合4社（三栄サービス、JP資源、日興紙業、奥山商店）にクラスごとに分かれて体験学習が行われた。

生徒たちは皆マスクをして手には軍手をはめていた。事前の学習とやる気を感じました。古紙の分

別作業は古新聞の束から結んであったビニールの紐、雑誌、段ボール、ティッシュの箱、窓付き封筒や新聞販売店から配られる未晒しの回収袋などを取り除いた。最初は古紙の多さやフォークリフトの動き回るヤードの中おそれるおそれる作業をしていた生徒たちもすぐに慣れ見る見るうちにきれいに選別された新聞の山が出来上がりました。

普段は目にする事の無い古紙のリサイクルの現場での作業体験を通して地球の環境やごみ問題に関心を持ってもらい、生徒たちが家庭生活の中でごみの分別や古紙の分別をする時に生かしてもらいたいと思います。（奥山慎吾）

●小平二中の生徒が小平市リサイクルセンターで体験学習

小平市環境部（環境保全課）より小平市二中一年生約二〇〇名を小平市リサイクルセンターで体験学習させるよう申し込みがあった。十一月九日、十一日、十二日、二十五日、二十六日の計五回に分けて行われた。

最初に榎本所長の説明を受け、ビン、缶、ペットボトルの選別作業、プレス作業を見学し何人かの生徒によるペットボトルのキャップ取りを体験した。ベルトコンベヤー

で流れて来るペットからキャップの付いているものを拾い上げキャップを取り除く作業だが、実際に作業をしてみると見た目以上に大変な作業であることを実感したようだ。また、缶の置き場などの臭いに耐えられず気持ち悪くなりしやがみこむ生徒などもいた。生徒数が多いのか引率の先生も十分目が届かず、熱心に説明を聞く生徒、遊び半分の生徒がいたりときさまざまであった。

一般市民の方が排出した資源がその後どのように処理されているのかを体験することによりルールを守ってリサイクルに協力願えればと思います。（花島文雄）



小平市リサイクルセンターでの体験学習

第十一回多摩とことん討論会開催

去る十一月十三日(土)、東京・多摩市の多摩ニュータウン環境組合「エコにこセンター・多摩清掃工場」で、第十二回多摩とことん討論会が開催された。

〔全体会〕

まず、全体会が行われ、萩原喜之氏(中部リサイクル運動市民の会)が、基調講演を行った。この中で萩原氏は、中部リサイクル市民の会の活動を紹介し、併せて一九九〇年代の名古屋市のごみ減量活動についても説明した。その内容は次の通りである。

「我々中部リサイクル市民の会は、『地域循環型市民社会』の実現を目標に掲げて活動している。

その一つとして、一九九〇年代の名古屋市のごみ減量活動について紹介する。当時の名古屋市では、ごみの最終処分場(名古屋市愛岐処分場)岐阜県多治見市)が満杯の危機にあり、行政が一人一日一〇〇gのごみ減量運動(チャレンジャー〇〇作戦)を呼びかけていた。しかし、効果はほとんどあがらない。やがて、名古屋市民が、ごみの最終処分場や焼却施設(新南陽工場)を見学して、名古屋市のこ

みの深刻化を知ることになる。そして名古屋市民は、市営団地での自主的なごみの有料化や、独自にごみ収集ステーションを作り分別回収を始めるなど、独自にごみ問題解決に向けて行動を起こしたのである。

このような名古屋市民のごみ減量活動をみても解るように、市民が自分たちの町を自分たちで守るために行動を起こすには、行動に対する動機付けを行うと共に、行動を起こすための情報・システム作りが必要となる。

つまり、市民がごみ問題を解決するためには、行政から市民へのごみ処理コスト等の情報公開や、行政・市民・企業の三位一体のシステム作りが必要なのである。」

〔第一分科会〕

続いて、第一分科会「リサイクルの費用はどう負担する」が、鈴木直人氏(東京・多摩リサイクル市民連邦)、西ヶ谷信雄氏(容器間比較研究会会員)の二人の講師を招いて行われた。

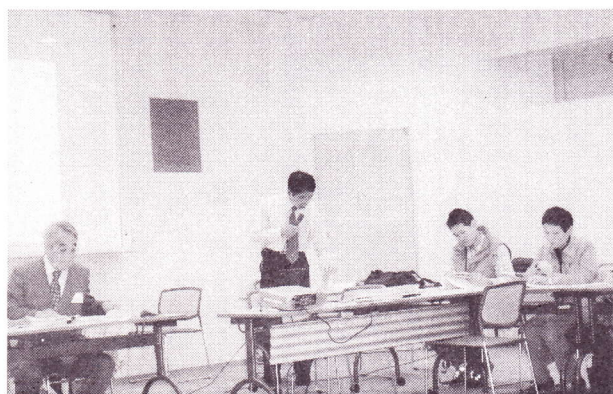
まず、鈴木氏は「リサイクルの費用負担の議論について」と言うテーマで、多摩とことん討論会の

分科会のあり方や、市町村のごみ処理コストをめぐる議論・容器包装リサイクル法に関する自治体の主張・ごみ処理コストに関する事業者側の主張などの実態について報告し、最後に①分別収集・リサイクル②ごみ処理にかかる費用(税金)の実態、③生産者と行政の言い分はどちらが正しいか、④行政がごみ処理・リサイクルの費用を負担しない理由、⑤ごみの有料化で税金は安くなるのかといった疑問・検討課題を投げかけた。

次に、西ヶ谷氏は、「容器包装リサイクル方の分別コストの実態」というテーマで、容器包装のコスト試算や容器包装コストのアンケート調査を紹介し、併せてコスト調査からみる市町村の問題点について説明した。そして、容器包装・中間処理は、本当に市町村の責任で行わなければならないのか、もっと拡大生産者責任を採用するための議論が必要なのではないかといった提言を行った。

最後に、二つの報告に対する質疑応答が行われた。この中には、「事業者自身にコスト責任を明確にもたせるのはどうか」、「ごみ処

理は、地方自治体の判断に任せるという原則に、国からの統一の見解を押し付けるのは矛盾している」、「市民と行政が一体となってリサイクルの方法を考えるべきだ」、「容器包装リサイクル法は根本的に見直さないとダメ」、「行政は、清掃事業とリサイクル事業を区別することが必要である」といった疑問や意見がだされたが、結論はまとまらず、これからもこのような討論会を開催し、行政・市民・事業者が三位一体となって議論しながらリサイクル問題について考えていくべきだという提言がなされて、分科会は終了した。



第12回多摩とことん討論会

第一回「エコドリム・読書選手権」開催

十一月二一日「環境NGO・EG倶楽部」と「NPO法人・読書DMO」主催で、第一回「エコドリム・読書選手権」が東村山市久米川小学行体育館で行われた。後援に東村山市教育委員会、東京都助成に文部科学省「子ども夢基金」協賛には東村山市環境部、東村山警察をはじめ当組合も含めて十一団体などである。

課題図書「みみずのカーロ」とアニメ「となりのトトロ」から出題して解答を競うクイズ形式で行われた。対象は小学三年生から六年生までで、友達、兄弟、親子などペアでチームを組んでいた。会場内は応援席にいが並べられ、東村山市児童の環境ポスター、みみずを養殖している実物のボックスの展示、当組合のトイレットペーパーがピラミッド型に積み上げられ雰囲気盛り上げていた。体育館の床に各チーム思い思いの場所に座り込んで開会を待つ。当日六四チームが参加。青梅や福生など遠方からの参加もあった。一〇時に「環境NGO・EG倶楽部」の大野由利子代表から開会の挨拶があり、司会からルール説明

があつて、予選ラウンドが開始された。大野代表はこれを機会に読書好きになつてほしいこと、自然環境の守り手に育つてもらいたいと挨拶し、今日ここに参加された方は、「みみずのカーロ」となる「トトロ」を何回も何回も読んだり観たりしてきたことで今回の主旨はすでに達成されていると述べられた。予選ラウンド前半は問題が読み上げられ、イエスカノーで答え、体育館を二つに仕切りイエスコナー、ノーコナーにそれぞれ移動する方法で一〇問行われた。予選ラウンド後半は答えを解

答用紙に直接記入する仕方で一〇問出題された。前、後半ラウンドとも一問ずつ問題を読み上げ解答してそのつど八人ほどのスタッフがすでに受付で各チームに渡してある解答用紙にチェックを入れて回る。答えが発表されるたびに、きやーと歓声が上がったり、飛び跳ねたり、手を取り合ったり、満面笑みをたたえたりと嬉しさを表現していた。答えも単にマイクで発表するのではなく、イエスには青い、ノーには赤い大きなボールを壇上から投げ入れたり、スタッフ

二人で答えが書かれた紙をクルクルと広げたりとワクワクドキドキを高める工夫がこらされていた。

予選ラウンドが終わり十分間の休憩、スタッフが解答用紙を集め集計。上位五チームが決勝進出、敗者復活戦で三チームがえらばれ計八チームで決勝が争われた。決勝戦はトーナメント戦で二チームずつ壇上に上がり答えがわかつたらボタンを押して早い方が先に答える権利がある早押し方式だ。先に二問正解したチームが勝ちというルール。壇上にあがると笑顔が消え、緊張しているのが伝わってくる。あつさり二問先取るチーム、逆転して思わず互いに手を取り合うチーム、問題の途中で早トチリして違うことを答えしまい、残念そうな表情を浮かべるなどなかなか見ごたえがあつた。決勝は南台小三年の友情ファイターズと秋津小四年生チームの対戦となり一進一退を繰り返したが、友情ファイターズが見事優勝した。ファンファーレが鳴り、直ちに金、銀、銅(二個)メダルの授与が教育委員会次長より行われた。最後にEG倶楽部の滝本氏の閉会の辞が述べられ、予定時間どうり十二時終了した。出口で参加者全員に参加賞が手渡された。

実に見事な運営に感心させられた。敗者復活戦の盛り上げかた、決勝に進出できなかったチームを決勝進出チームごとの応援団に組み入れるなど最後まで参加したことへの一体感を持たせる配慮。そのほか随所にきめ細かい注意が払われ、ハプニングにも即対応できるような二重三重にも準備が行われていたことがわかる。当日は三十人ほどのスタッフが居たろうと思う。この催しに関わった全スタッフ一同に心から喝采を送りたい。



エコドリム・読書選手権の様子

ヴィーナス短信

各市で抜き取り対策

当組合では、古紙採取業者の横行に歯止めをかけるため、関係各市に請願や要望を行った(前号に掲載)。小平市では、市民に対し採取車の通報を呼びかけ、古紙を出す際に、抜き取り防止用はり紙をはつてもらう用紙も準備した。また、集積所には掲示板を出して警告したり、早朝パトロールも強化するという。東村山市・清瀬市では条例化の方向で検討を進めている。

新潟県中越地震被災地に

義援金を送る!

組合では、震災に遭われた被災者の皆様のご心労を痛み、組合員やその関係者にお願ひして支援の募金活動を致しました。

このたび合計二十万円で達しましたので読売新聞社を通して送らせて頂きました。

厳寒の季節に向かつて大変でしょうが、一日も早い復興を祈ります。

行事・行動

【九月】

- 四日：日資連古紙委員会理事会
- 一〇日：定例理事会

- 一日：小平市リサイクルフェア
- 三日：小平市廃棄物減量審
- 七日：RC責任者会議
- 二二日：中央セセミナー
- 二六日：関東資源回収組合連合会(関東連)箱根総会で
- 三〇日：古紙センター業務委
- 【十月】
- 一日：古紙センターバーハリサイクルフェア
- 二日：製紙連シンポジウム
- 一〇日：清瀬市市民まつり
- 一日：定例理事会
- 二二日：古紙センター三〇周年
- 二二日：青年部会議
- 二五日：米国西海岸視察一週間
- 二九日：北陸研修旅行三日間
- 【十一月】
- 四日：多摩R団連幹事会
- 五日：古紙セミナー
- 九日：大妻女子中生一五〇名
- 職場体験で来組
- ：小平RC体験学習
- (26日まで計五回)
- 一〇日：広報委員会
- 一日：定例理事会
- 三日：多摩とことん討論会
- 五日：青年部会議
- 八日：RC責任者会議
- 九日：広報委員会

- 二一日：エコドリム東村山
- 二四日：抜取問題検討委員会
- 二五日：古紙センター業務委
- 【十二月】
- 五日：組合理事・従業員・賛助
- ：組合合同忘年会
- 六日：広報委員会
- 九日：多摩R団連幹事会
- 一〇日：エコプロダクツ
- 一〇日：定例理事会
- 一三日：公益法人化発起人会
- 一五日：清瀬市厚生委員会
- 理事長抜取問題を説明
- 一六日：小平市廃棄物減量審
- ：RC責任者会議
- 一七日：財務委員会
- 三〇日：仕事納め

リサイクル川柳

◎飽食が

学力を下げ

ごみ増やし

◎古紙採取

循環社会を

かき乱し

◎財政難

環境予算も

抜き取りか

(改修業者)

編集後記

明けましておめでとうございます。本年は酉年。さらに羽ばたく年にしたいと思えます。より一層のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返ってみれば、高い技術力を誇った三菱自動車、流通革命を誇ったダイエー、バブル期には資産No.1を誇った西武が相次いで不振となりました。小さな雑貨店を、日本一まで引き上げたダイエーの中内さんは今でも憧れの人です。リサイクル業界においては、ほとんどのリサイクル原料が中国の輸入拡大で振り回されてしまいました。テレビに映し出される中国人バイヤーの再生資源の調達場面は、すべてのリサイクル原料が高値で取引されているかのようになり、古紙にいたっては、国内回収量のたかだか一割しか輸出していないのに、全体が値上がりした様な報道ばかりでした。大手古紙問屋の営業所乱立も不況の中で築き上げてきた地域リサイクルシステムを乱しています。今年是中国が不況になった時、わが業界にどのような影響があるか慎重に研究する年となるのではと思います。(吉浦高志)